

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650280211		
法人名	医療法人 真誠会		
事業所名	グループホームひなたぼっこ		
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉六ノ越		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人がその人らしく生活できるように、支援している。看取りケアを行っており、最後まで家族的なケアの中で看取りを行っている。認知症ケアの質の高さを職員全員が意識しており、内部・外部の研修会参加などで知識を得る機会を増やしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、全職員で理念について話し合い、つねに基本を大切に利用者住み慣れた地域でその人らしく暮らすことができるよう取り組んでいる。また、事業所では、利用者自身が地域の老人会や小学校の通学路で安全パトロールを行うなど、地域の一人としてその役割を担うことができる仕組みを構築している。保育所の運動会に参加したり、また園児の来訪を受け入れたりすることもあり、地域との交流に積極的に取り組んでいる。事業所では、毎日の食事づくりを、利用者との食材の買い物から行っている。日頃から利用者の得意なことを活かした支援に努めており、毎日の生活に生きがいを感じてもらえるよう取り組んでいる。同一法人の運営する医療機関と連携し、昼夜を問わず対応の可能な医療連携体制を整備している。代表者は、職員の資格取得や研修への参加を支援しており、職員もまたさらなる意欲の向上と習熟度を高め、日頃の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はステーションに掲げており、全職員が共有し、意識できるようになっている。	毎日の朝礼時に職員間で理念を唱和している。職員は、つねに理念を念頭に置き、利用者が住み慣れた地域でその人らしい生活を継続して送ることができるよう、統一した支援に取り組んでいる。職員間で理念について話しあい、見直しや評価を重ね、意識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の老人会への参加や地域での花の種蒔きなど積極的に参加している。また、ボランティアの受け入れや運営推進会議、介護相談員の方の来苑もあり交流している。	事業所として、毎月の老人会や地域の清掃活動に参加している。手作りの小物を持参して、一番札所でお接待を行ったり、小学校の通学路でパトロールを行ったりしている。また保育所の運動会に参加することもある。事業所には、乳幼児の来訪などがあるため、利用者の楽しみとなっている。近隣住人のお話ボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来る事はできるだけして頂き、小学校への安全パトロールで児童と関わりを持ったり、一番札所へのお接待を通じて、お遍路さんや参拝の方との触れ合いにも繋がっていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回行われる運営推進会議においては地域の方、民生委員の方等参加下さり、施設のことも知って頂ける機会でもあり、また、来て下さる方のことも知る大事な機会となっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。市の承諾を得て、同一法人の運営する併設の他サービス事業所と同じ日に開催しているが、出席者を入れ替えるなどの対応を行うなどして利用者のプライバシーに留意し開催するようにしている。会議では、パワーポイントを活用し、出席者に分かりやすいよう事業所の取り組みや情報を共有している。出席者から出された意見や提案は、職員間で協議し運営面に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や認定調査においても市の職員の方との情報交換の場となっていると思う。これからも意見を出し合い、ケアの向上に繋げていけたらと思う。	管理者が中心となって、市担当窓口を訪問し、事業所の現状報告や課題について相談をしている。また、介護相談員の来訪を受け入れ、様々な相談をすることでサービスの質の向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては研修などにも参加させて頂いたり、職員間で理解できていると思う。	全職員で身体拘束について話しあっている。身体拘束の内容と弊害の理解を図り、身体拘束しない支援に取り組んでいる。また、職員は事業所内外の研修会に参加して知識を深めるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	手を挙げたりすることはもちろんありません。言葉の暴力にも気をつけているが、言い過ぎたり自尊心を傷つけたりしていることがあるかもしれない。それは全職員注意しあえる環境である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については理解してはいるが、活用したり話し合ったりはまだできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より、入居時には必ずご家族に説明し、理解して下さったうえで契約している。ご家族の方からのその後の質問や要望がある場合にも面会時にその都度対応させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会の際には必ず声を掛け近況をお話させて頂いている。ご家族からの思いについては遠慮をしていることあると思うのでもっと思いを汲み取れるよう努め職員で話し合いたい。	家族の来訪時には、職員から声かけをするよう努めている。その際、家族に利用者の状態を報告し、意見や要望を聞いている。事業所では、意見箱を設置したり、年2回の家族会を開催したりしており、家族の意向の把握に努めている。家族会では、夕食と一緒に食べる機会を確保するなど、利用者と家族が意向を表出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望は職員間で話し合い、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者から運営についての話があったり、職員の意見を聞いてもらえる機会もあり、相談できる環境であると思う。	管理者は、日頃から職員とコミュニケーションをとるよう心がけており、意見や相談があればそのつど話し合いの機会をもつようにしている。また、職員が法人内・外の研修会に参加することができるようにし、発表の機会も設けている。職員のスキルアップに向けて積極的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が協力して助け合いながら業務に取り組んでいると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修もあり、いろいろな部署のことを知る機会がある。研修については出席できる範囲でできるだけ参加させて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、他施設実習をさせて頂くことで、また違った視点からケアを見直すことができ、とても勉強になっている。お互いのサービスの質の向上に繋がると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の時点では環境も変わって不安も大きいがなかなか不安を出せなかったりすることもあるのでできるだけ声かけと観ることに努めたいと思っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が遠慮なく、思いを職員に声に出せるよう、面会時などは必ずこちらから声をかけることは心がけている。ケアカンファレンスもお互いを知る良い機会であると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としていることに添えているかといえばまだまだと思う。その時に本当に必要としていることをもっと見極めるようになりたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけいろんな役割を持っていただいたり、一緒にする中でまたコミュニケーションにも繋がっていくと思う。もっと一人ひとりが生き生き生活できるよう努めたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の支援には本当に頭がさがる思いです。一緒に苦楽を共にしながら生活してはいる思いですがご家族との交流は何にも変えられないくらい大きな支援の一つとなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援において馴染みのある場所へ一緒に出かけたり、買い物などで友人に会うこともあります。もっと馴染みの場所を一緒に大事にできるよう努めたい。	事業所では、利用者が馴染みの商店で買い物つをしたり、墓参りに出かけたりすることができるよう支援している。事業所として地域の老人会に加入するなど、地域行事にも参画している。利用者の友人等の来訪を快く受け入れてる。利用者が友人の家に電話したり、年賀状を出したりすることができるよう支援している。本人がこれまで培ってきた関係の継続性を大切にしたい支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり心身の状態がもちろん違います。その時々でお互いに支えあっていると思う。職員が間に入りながら孤立なく明るく生活できるよう支援したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ひなたぼっこの利用が終了してもご本人・ご家族の方との繋がりや関係には終わりはないのでこれまでの関係を大事にしていきたい。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴などを参考にしながらしたいことや希望をくみとれるようにしたいと思うが、思いを伝えられない方は特にもっとその人らしく生活していけるよう努めなければと思う。	職員は利用者一人ひとりが楽しいと感じることを把握するよう努めている。なお、意志の表出が困難な利用者には、些細な表情の変化や動作、生活歴、家族からの情報等から、本人の立場に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実際にはなかなか難しい現状もあるが、今まで生活してきたこと、リズムなどを大切に、出来るだけ今までの生活に近い生活が送れるようにと思う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態は毎日一人ひとり違うので、その日のご本人のペースを大事にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでご家族にケアについて説明させて頂き、要望等も聴くことができる機会になっている。状態の変化においても医療との連携をしながらチームワークを大事にしている。	職員間で意見を出しあい、介護計画書を作成している。利用者の体調面のみならず、希望に応じてそのつど計画を見直すようにしている。事業所では、関係者間でカンファレンスやモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と連絡ノートがあり、職員が利用者の方の情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況には敏感になっているものご家族の状況やニーズについてもっと考えて柔軟に支援出来るように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や介護相談員の方が来苑下さり、利用者の方とコミュニケーションをとって下さっています。また、馴染みの理美容院を利用されている方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に添った受診の支援ができていると思う。	事業所では、本人の希望するかかりつけ医の受診を支援している。利用者に急な体調の変化があった際には、協力医療機関で対応するようにしている。歯科などの専門科やかかりつけ医が遠方の場合には、家族の協力を得て受診するよう支援している。受診結果は家族と職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医を通じ医療との連携がはかれていると思う。併設施設の看護師との情報交換もあり、体調の変化にも早い対応ができるよう協力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や緊急搬送時には利用者の情報を伝え、その後の状態も入院先やご家族から経過を伝えて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけご本人、ご家族の思いに添えるよう主治医と医療・介護の連携で支援している。終末期においては主治医からご家族への説明もしながらケアについて日頃から話し合っている。	入居時の段階で、本人や家族に重度化した場合や終末期の事業所の方針を説明し、同意を得ている。利用者の状態や家族の意向に変化があった際には、そのつど話しあっている。職員は、医療機関と連携を図り、チームで支援するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その時になってみてのとっさの判断はとても難しいが救命講習等受け、緊急時の対応ができるようには備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い、緊急時に備えているが、地震や火災等で避難についてなどもっと具体的なシミュレーションが必要であると思う。	事業所では、年2回、消防署の協力を得て、日中と夜間の火災を想定した消火・避難訓練を実施している。利用者と職員で地域の防災訓練に参加している。手作りの防災ずきんや備蓄品も備えている。運営推進会議では、家族や地域住民の代表者に災害時の協力を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり対応も、大事にしていることも違うので、その人が大事に思っていることを共に大事にできるようケアしていきたい。言葉かけにおいても気をつけたい。	事業所では、利用者一人ひとりの意向の把握に努めている。利用者の意向に応じて、居室での読書やテレビ鑑賞など、一人ひとりの時間を大切に支援している。本人の気持ちについて職員間で確認しあい、プライバシーに配慮したさりげない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな決定からでも、どちらが良いか等ご本人に決めて頂くようには心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりともっと関わりが持てるよう意識しなければと思う。業務優先でなく利用者の方と話したりする時間をもっと大事にしたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その都度気付いた時に声かけしている。おしゃれが好きだけど服装など迷っている時には一緒に選んだり臨機応変に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方にメニューを書いて貼ることで食事を楽しみにされている方は立ち止まって観られている。また、食事を一緒に作ったり盛り付けをして頂くことで楽しく過ごせるよう心がけている。	管理栄養士の献立に基づき、事業所で利用者の好みやアレンジを加えて提供している。利用者と職員で食材を買い出しに出かけたり、調理や片づけなどを協力して行ったりしている。利用者と職員で同じテーブルを囲み、食事をとっている。食を通じた関わりを重視することで、利用者の得意なことの発見やできることの継続に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立をたて、管理している。医療と管理栄養士、介護士の連携で身体に合った食事の提供に努めている。水分量においても毎日記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後している方もおられますが全員毎食後はできていないのが現状です。口腔ケアで口の健康にも気を付けていくことは課題です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるように心がけ、動きに敏感に反応できるように努める。排泄パターンも日々変化もあるのでその都度対応している。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの些細なしぐさに着目し、排泄のサインなどを見逃すことのないよう努めている。利用者がトイレで自立して排泄することができるよう、職員はさりげない声かけに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、便が出ていない時には水分補給や無理なく身体を動かして頂き、対応している。便が出ない日が続く時には主治医に上申し、指示を仰ぐ。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が不安にならないよう楽しく入浴して頂けるよう笑顔で対応している。曜日や時間については合わせて下さる事も、みんなの希望を取り入れられてはいないこともある。	事業所では毎日の入浴を支援しており、利用者の希望に応じた対応を心がけている。入浴を拒む利用者には無理強いすることなく、タイミングを見計らって支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜、安心して休めるように一人ひとりの今までの生活ペースを大事にしている。昼夜逆転することができるだけないよう日中活動を増やしたい。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の副作用などについてはまだきちんと把握できていないです。臨時薬や薬の変更時には特に体調に気をつけ、観察するようには心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴等から好きな事を見出すことで生き生きされていると思う。特に趣味などがなかった方については新しく張り合いのあることや役割を見出すことを支援していかなければと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられるような外出を大事にしていきたい。また、住み慣れた場所や、ご家族との外出の時間も大事にできるよう、ご家族の方に外出の声をかけ、協力して下さっている。	天気の良い日には、利用者と職員で事業所の周辺を散歩したり、ベランダや花壇で日光浴を楽しんだりすることができるよう支援している。四季折々の行事にも出向いている。利用者一人ひとりの希望に応じて、ドライブや買い物にも出かけている。外出した帰りに喫茶店でコーヒーを飲むなど、その時々意向にも対応している。自宅に帰りたいときにも、家族の協力を得て対応するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については自分でいくら持たれて買い物などで使われたり、自己管理の難しい場合には事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望の声があったり、会いたい気持ちを感じる時は連絡している。ご本人が難しい場合は職員が代行している。手紙のやりとりについては実施できていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾を一緒にすることで季節を感じて頂いたり、温度については室温を日々管理している。リビングはゆったり過ごせるよう明るい声かけに努めている。	共用空間には、暖かな日差しが差し込んできている。壁面に思い出の写真を飾ったり、随所に季節の花を飾ったりしている。事業所の花壇で季節の花を育てたり、菜園で野菜を育てたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビとソファもあり、利用者の方同士や職員を交え談話したり楽しく過ごせる空間であると思う。一人になりたい時には無理をせず居室でゆったり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大事にしているご家族との写真や、施設からの外出で記念になる写真、また、ご本人が作られた作品などを居室に飾られたり、その人らしい空間を大事にしている。	居室には、利用者の使い慣れた家具を持ち込んでもらい、一人ひとりに合わせた家具の配置となるよう配慮している。壁面には、習字や思い出の写真などを飾っている。読書や編み物、テレビなど、一人ひとりが自由な時間を過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口に名前があるが、わかりにくい場合は大きく表示したり、トイレに道順の矢印を表示し工夫している。居室やリビングは特に足元など危険のないよう安全に努め、不具合があればその都度対応している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有を確実にするため、毎朝出勤時に朝礼を行い、それに基づき業務を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会・保育園の行事などに積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会参加や、地域のイベントごとなどに積極的に参加し地域の方々に理念浸透に務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事例の紹介を行い、委員さんからの意見や提案をいただき、より良いケア実践の為に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方からご指導や提案をいただいたり話し合いの機会を設けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などにも参加させて頂いたり、職員間で理解できている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃のケアの一つが虐待行為に当たらないように努めており、グレーゾーンの撤廃が目標である。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	書籍やリーフレットなどでの個々での学習、法人内の地域包括支援センターの職員からの説明等の二重の学習の機会をもち、適切に活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項・ホーム内や法人内で行える対応などの説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や意見箱を設置し自由に意見を示せる機会を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や希望を聞くよう、管理者や代表者は常日頃からコミュニケーションを図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	よりよい環境にするため待遇改善に努めていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期学術勉強会を行い、職員一人一人のケアの質向上のため努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への積極的な参加を通じて同業者同士の交流機会を多く設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の心身の状態や本人の思いに向き合い、受け入れられるよう関係づくりに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることなど、本人の意志とは別に把握し、家族との信頼関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームとして可能な限り柔軟な対応を行い、状況によっては他の事業所とのサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野を活かして、職員と共に「暮らしを共にする」という形で一緒に作業をし良い関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員がご本人とご家族の懸け橋となるようコミュニケーションをお互いに取り、よい関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係継続のため、これまでの関係が途切れぬよう来苑をお願いするなど努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性、個人の特性を共有し、良好な関係が築けるよう調節役として努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られていても、お互いに行き来しあったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でご本人の言葉や行動などから、真意を見出し本人らしく生活ができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	長年の生活歴を知り、その中で大切にしてください。こられた事などを生かし、本人らしく生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	長い間の生活リズムを職員全員が共有し、ご本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を元にご本人の意向、家族の要望を聞いた上で、見直しに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有の為、日々記録している個人の情報を就業前に全職員が目を通すよう義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況やご本人やご家族の要望に応じて、外出や買い物など高い満足度が得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望にそって地域資源を有効に使い、安心・安全でその人らしい生活が楽しくできるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望にあわせた医療機関に受信できるよう応じている。他の医療機関からのセカンドオピニオンが得られる環境も整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援がなされるように整えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に情報提供をしており、入院によるダメージを最小限に食いとめるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の対応について、なるべく早い段階で本人・家族・担当医・ケア関係者と話し合いを繰り返し対応方針の共有をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を全職員が受講し、臨機応変に対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消火訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人を尊重する気持ち・人権を気遣う心を持ち、利用者を主役としたケアを実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意見や主張を大切にし、自己決定の場面や意図の実施に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課を優先するのではなく、今までのご本人の生活リズムを大切にしながらご本人の希望や意図に沿った暮らし方を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が好み選んだ嗜好を尊重し、その人が希望する形のお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けまで、利用者と共に食事が楽しいものになるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導の下、十分な栄養や水分量が確保できるよう、利用者に合わせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力に応じ、その人に合った口腔ケアの実施をお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動の実施、食事による管理により個々に合わせた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	プライバシーの保持や自尊心を気付けないう心配りをし、入居者の好きな時に入浴ができるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整うよう配慮している。また踏む員の訴えがある場合、お話を伺う・飲み物を提供し気持ちをリラックスしていただけるような配慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者がどんな薬を使用し、どんな効果や副作用があるかなどをご家族・職員共に情報を共有している。また、その人に応じた飲みやすい方法を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の持つ力が発揮できるよう、調理や買い物などを一緒に行うなどの機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	興味関心のある場所や行事に出かけるなど外出が楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の了解の下、所持金を持っておられる方には、買い物時に本人が好まれる品を買い、ご自身で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望によっては電話の発受信やお手紙のやり取りなどご家族や友人との関係が壊れぬよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすさ・分かりやすさに配慮し、大きめの表示やマークを掲示している。また四季折々の小物や植木鉢を設置し季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはベンチ・畳の座敷などがあり仲の良い利用者と過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のこだわりやなじみの物などを持ち込んでいただき個々が過ごしやすく居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体機能を考慮した手すりや無断差、案内表示など安全且つ自立した生活が送れるよう工夫している。		